

第3学年社会科（公民的分野）学習指導案

日 時 平成24年11月8日（木） 5校時
学 級 3年3組（男子22名 女子14名 計36名）
授業者 教諭 村上 好永

1 単元名 地方自治と住民の参加

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、中学校学習指導要領社会〔公民的分野〕の内容「(3)私たちと政治の「イ民主政治と政治参加」に位置付けられ、「地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる」ことを主なねらいとしている。

本単元では、自分自身の所属する地方公共団体の政治を例にもふれながら、住民自治を基本とする地方自治の考え方と実際の運用について考察する。すなわち、地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治に基づくものであること、そして、このような住民自治を基本とする地方自治の考え方が、地方公共団体の政治の仕組みやはたらきを貫いている基本的な考え方であることについて、具体的な事例を基に追究していく。また、住民の権利や義務について考えることにより、地域社会への関心を深め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を涵養したい。それによって、先に学習した憲法と国政に関する学習を、より身近なものとして実感することになる。

公民的分野全体の単元構成の中では、「第3章 わたしたちの暮らしと民主政治」の終末部分にあたり、「1 民主主義と日本の政治」、「2 司法権の独立と裁判」を受けて、章のまとめとなる学習内容である。国の三権に関する学習を土台に、より身近な地方自治に目を向けることで、前単元までの学習が補完される。自分自身が所属する地方公共団体の政治の実例を具体的に考察し、自らが地方自治に主体的にかかわろうとする意識を育てていきたい。

(2) 生徒について

授業に意欲的に取り組む生徒が多いが、落ち着きに欠ける生徒も見られる。発言や作業は活発で、集中して話を聞くことによって、さらに学習活動が向上すると思われる。

4月当初の学習調査では、社会科が「非常に好き」と答えた生徒が5名、「やや好き」が21名、「あまり好きでない」が7名、「好きでない」が2名であった。また、分野別では歴史的分野が好きだと答えた生徒が多かった一方で、公民的分野が好きだと答えた生徒は2名にとどまった。

これまでの学習では、身近な社会的事象などを効果的に提示し、話し合い活動を行ったり文章で説明・論述したりする場面を設定する工夫を試みてきた。前単元までの学習のなかでは、模擬選挙の実施や議院内閣制の実例の考察などを通して、小グループで話し合い意見を交流する場面を設定してきた。その結果、学習意欲や技能・能力の面において、ある程度の向上が見られた。一方で、資料を読み取ったりや考えをまとめたりする際に論述・記述する力が不足していることが、課題である。

(3) 指導について

指導にあたっては、小グループによる調べ学習や資料の読み取り作業、テーマに沿った意見交流などを取り入れ、グループ活動の成果を自分自身の言葉でまとめ、記述し、発表する場を積極的に設定していきたい。生徒にとって、国政よりもより身近に感じられる地方自治について、具体的なようすをとらえるために、さまざまな事例を引きながらその実際の姿を理解させていきたい。また、地方分権や市町村合併がかかえる問題について、小グループによる調査活動や話し合い活動、意見交流などを通して、考えを深めさせたい。

3 単元の指導・評価計画（6時間）

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地方公共団体で実際に行われている政治に対する関心を高めるとともに、地域の政治をよりよくしていくために自分にできることは何かを意欲的に考えようとしている。	地方公共団体が果たしている役割や地方財政のあり方について、地方公共団体の経済活動に関わるさまざまな事象から課題を見だし、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	地方公共団体の政治に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択してまとめている。	地方自治の本質や意義、地方自治の仕事やしぐみ、住民の権利、地方の課題などについて理解し、その知識を身に付けている。

(2) 時間ごとの指導・評価計画

時	学習内容	学習目標	評価規準	評価方法
1	身近な地域の政治 ～地域の課題と地方自治～	地域が抱える課題に気づき、住民参加による地方自治の意義や地方分権の考え方について考察することができる。	・地方自治がかかえる課題について、多面的・多角的に考察している。(思考・判断・表現)	・学習シート ・観察
			・地方自治の意義や地方分権の動きについて、正しく理解している。(知識・理解)	・小テスト ・学習シート ・発言
2	地方自治のしぐみ ～地方公共団体の仕事と財政～	地方公共団体の仕事や仕組みについて、身近な事例から追究することができる。	・身近な地方公共団体の仕事について、興味や関心をもって調べようとしている。(関心・意欲・態度)	・観察 ・発言
			・自分の所属する地方公共団体の広報などから、具体的な仕事や財政に関する情報を選択して収集している。(技能)	・観察 ・ノート ・小テスト
3	住民自治が地域をつくる ～住民の権利と参加～	住民がもつさまざまな権利とその意義を理解し、各地で特色ある条例がつけられていることについて説明することができる。	・教科書や資料集から、「住民投票」や「特色ある条例」に関する情報を集め、それをわかりやすくまとめている。(技能)	・観察 ・ノート
			・直接請求権や住民投票などの住民の権利について、正しく理解している。(知識・理解)	・小テスト ・学習シート ・発言
4	地域の自立を 目指して ～地方自治の課題～	地域の自立にかかわる取り組みとその課題について考察し、今後の新しい取り組みを考	・市町村合併の長所と短所について、多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現している。(思考・判断・表現)	・観察 ・学習シート

		えることができる。	・市町村合併や開かれた地域づくりについて、その意義や課題を具体的に理解している。(知識・理解)	・学習シート ・発言
5 6 本 時 2 / 2	地域で安心して暮らすために～地方自治の「これから」～	現在行われている各地域でのさまざまな取り組みをふまえ、活力ある地域をつくるために自分たちでできる活動について考えることができる。	・活力ある地域をつくるために、自分たちにできることは何かを考えようとしている。(関心・意欲・態度)	・観察 ・学習シート
			・これからの地域社会の発展に向けて、自分たちにもできることを考え、自分の言葉で発表している。(思考・判断・表現)	・学習シート ・発言

4 本時の指導

(1) 目標

現在行われている各地域でのさまざまな取り組みをふまえ、活力ある地域をつくるために自分たちでできる活動を考えることができる。

(2) 評価規準

① 活力ある地域をつくるために、自分たちにできることは何かを考えようとしている。

(関心・意欲・態度)

② これからの地域社会の発展に向けて、自分たちにもできることを考え、自分の言葉で発表している。(思考・判断・表現)

(3) 本時の展開 (評価の○は本時の目標にかかわる評価、●はその他の評価)

	学 習 内 容	形態	指導上の工夫及び留意点	評価(観点、方法等)	資料
導 入 10 分	1 資料から、一関市が過疎地域であることを知る。	一斉	・学区を含む市中心部の利便性と関連付け、資料から地域への問題意識をもたせたい。		一関市の人口の推移
	2 学習課題を設定する。	一斉			
活力ある一関市をつくるためにはどうすればよいただろう。					
展 開	3 一関市の人口が減少している原因について考える。 ・若者の流出 ・職場の不足 ・出生率の低下 ・住みにくさ ・市町村合併 など	一斉	・2年地理で学習した「過疎地域」について想起する。 ・一関市のかかえる課題を指摘し、複数の資料で検証する。		一関市の出生率 一関市の年齢別人口 旧町村別の人口の推移 児童生徒数の推移
25 分	4 過疎化に歯止めをかけるためにはどのような手立てが考えられるか話し合う。 ・定住促進政策	グループ	・問題解決に向けての視点や方向性を定める。	○評価規準① 活力ある地域をつくるために、自分たちにできることは何かを考えようとして	

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のものを活用 ・旧町村の活性化 など 			いる。(観察、ホワイトボード)	
	<p>言語活動：過疎化阻止のための手立てについて、小グループで話し合う。 活動③</p>				
25 分	<p>5 活力ある一関市をつくるための具体的な方策について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業団地の誘致 ・イベントの開催 ・旧町村の良さを生かす など 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・3と4の分析を生かす形で方策を考えさせる。 ・教科書で紹介されている全国取り組みを参考にする。 	<p>○評価規準①</p> <p>活力ある地域をつくるために、自分たちにできることは何かを考えようとしている。(観察、ホワイトボード)</p>	教科書資料集
	<p>言語活動：活力ある地域づくりの方策について、小グループで話し合う。 活動④</p>				
終 末 15 分	<p>6 話し合いを振り返り、気付いたことや分かったこと、感想を書く。</p>	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を通して考えたことを自由に記述させる。 	<p>○評価規準②</p> <p>これからの地域社会の発展に向けて、自分たちにもできることを考え、自分の言葉で発表している。(観察)</p>	
	<p>7 記述したことを発表し、意見交流を行う。</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・2～3人に発表させる。 ・発表できなかった生徒の分は後日紹介する。 ・「山中生からのまちづくり提言」として市に送ることを告げる。 	<p>○評価規準②</p> <p>これからの地域社会の発展に向けて、自分たちにもできることを考え、自分の言葉で発表している。(発表、学習シート)</p>	